

平成19年度 大師こども文化センターの管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	財団法人かわさき市民活動センター
(2) 指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
(3) 業務の範囲	大師こども文化センターの管理運営に関すること 大師小学校・四谷小学校わくわくプラザの管理運営に関すること

2 管理運営（事業執行）に対する評価

評価項目		平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況			
施設の運営に関する職員体制に関すること	施設の運営に関する職員体制に関すること	①人的能力の充実を図るため職員の児童厚生員資格取得を進めると共に、新規採用職員は業務に関する資格取得者から選考しました。 ②本部の職員体制については管理係長1名、区運営担当主査を3名配置して各館との連携強化を図りました。	職員の業務に関する資格の取得を進めたこと、また本部職員の充実によりかわさき市民活動センターが管理運営している他のこども文化センターとの連携を図ったことは評価できる。職員の研修については、スケールメリットを生かし、大規模な研修を実施し、また、指定管理施設の各区、施設単位での研修も実施することにより職員のスキルアップを図っていたことは評価できる。今後もこども文化センター及びわくわくプラザの職員配置が適切に行われるよう努めること。
	施設の管理運営に対するニーズ等の把握に関すること	①児童からの直接聞き取りや、アンケートでのニーズ把握を行なった ②定期的に職員会議や臨時職員との会議を実施した ③館内に意見箱を設置し、利用者から広く意見や要望を求めた ④運営協議会やこども会議を定期的に行ない連携を取り、地域ニーズを把握した ⑤館のホームページを開設し、利用者が情報収集しやすい環境整備を実施した ⑥他のこども文化センターやわくわくプラザとの意見・情報交換を実施した。	継続的に利用者や地域住民からの意見・要望等を聞きニーズの把握に努めていたことは評価できる。他施設職員との情報交換や、意見箱の活用等により積極的にニーズの把握に努めていたことは評価できる。また、

サービスの提供に関すること	① 行事の運営方法については、誰もが気軽に楽しくより多くの児童が参加できるような内容や開催日時の設定を行なった。安全な行事運営について共通認識を持ち、集団で力を合わせて行なう活動も取り入れて全市、区単位での広範囲な地域を対象とした行事での仲間作りも実施でき、年齢を問わずに参加もできた。② 障害児への対応については、障害に対する理解を深め、障害児団体への利用促進もでき、財団所属の専門職スタッフによる相談員制度も活用した。③地域住民が参加できる運営では、積極的に運営協議会委員に運営に関わってもらい地域住民をも巻き込んだ行事を開催でき、その情報源として月1回のたよりも地域へ刊行・配布できた。④利用者や保護者対応については、利用者の側に立って利用し易いルール作りをし常時利用者の意見を聴き活動に反映させることができた。	運営協議会やこども会議等を実施しサービスの提供を行っていた。また、ホームページの内容をより充実させていたことは評価できる。障害児については、障害児相談員を雇用し、必要に応じ職員の相談を行い障害児の対応を充実させていたことは評価できる。障害児への配慮に努めたことは評価できる。また、地域住民と連携して事業を実施していることは評価できる。
事業の実施に関すること	事業計画に基づき、校外活動年2回の実施。運営協議会主催及びこども文化センターとの共催行事を年3回、野外活動を年1回実施した。校外活動については「しながわ水族館」と「アラジンと魔法のランプ」の観劇を実施した。運営協議会主催及びこども文化センターとの共催行事では「もちつき大会」「陶芸教室」「こども文化センターまつり」を開催し、もちつき大会では154人の参加、陶芸教室では30人が参加、こども文化センターまつりでは145人が参加し、校外活動と共に大変好評でした。	運営協議会との連携により行事を実施していた。今後も地域との連携をはかり、ニーズを把握していくこと。今後も、ボランティアの活用にも努めること。
個人情報の取扱いに関すること	個人情報セキュリティについては①簿冊は鍵のかかるロッカーや机の引出し、または金庫で保管・管理しました。②電子情報はパスワードによる管理、リムーバルディスクによる管理で、リムーバルディスクは金庫で保管・管理し、外部への持出し厳禁の指示を徹底しました。	個人情報の取扱いについては、概ね問題なく処理されている。
施設の安全管理に関すること	利用者の安全確保について①職員個々が安全確保について自覚を促し、保護者や児童に安全確保に対する声掛けをしました。②保護者や地域、学校や警察、消防署等の関係機関と連携をし、施設内点検と安全整備、施設備品、遊具の安全点検を行ないました。③消防計画の策定に基づいた定期的な訓練を実施しました。防犯対策について、学校、消防、警察等関係機関と連携し、こども110番へも取り組みました。災害時の対応について、暴風警報発令時の取り扱いを検証し、非難誘導、避難確認等定期的な訓練を実施しました。また学校、消防、警察等関係機関との連携を強めました。	毎日の清掃や始業時の点検を行い、安全性に努めている。また、関係機関と連携した防犯対策やこども110番への取り組みは評価できる。大師小学校・四谷小学校わくわくプラザにセンサーライトを設置し、より安全性を高めていたことは評価できる。

(2) 利用状況		
①こども文化センター	延べ利用者数 26,624人 延べ団体利用数 3,951団体 (主な行事等) ミニイラスト もちつき大会 (特色のある行事) エジソンのハテナ?実験室	地域の状況に合わせた特色ある行事の実施している。また、地域との連携を図り行事を実施していることは評価できる。行事の実施に当たっては、具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。
②わくわくプラザ	1 大師小学校わくわくプラザ 登録者数 207人 延べ利用者数 9,151人 (主な行事等) ぬりえコンクール プロペラ紙飛行機 (特色のある行事) 金銭教育イベント 2 四谷小学校わくわくプラザ 登録者数 196人 延べ利用者数 12,978人 (主な行事等) おみせやさん わくわくおたのしみ会 (特色のある行事) わくわく手話ひろば	行事については、順調に実施されている。利用状況は具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。

評価項目		平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(3) 収支状況			
① 収支状況		(単位：円)	事業実施後指定管理料の残額を戻入しており指定管理料の範囲内で事業の実施を行っている。今後は収支のバランスを考慮しつつ、事業をより充実させるため適切な経費の執行を図ること。
	収入	指定管理料 50,926,020	
	支出	人件費 39,290,793	
		管理費 3,304,352	
		事務経費 1,937,847	
		その他経費 1,436,042	
		青少年事業資産取得支出 909,090	
		減価償却引当資産取得支出 40,492	
		第1回精算に伴う返納金 636,363	
		第2回精算に伴う返納金 3,000,000	
		合計 50,554,979	
	差引	371,041	

3 管理運営（事業執行）に対する全体的な評価

指定管理以前から委託事業者としてこども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わっていた経験を生かし、また、全市58施設の内55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、施設ごとに偏りの無いサービスの提供を行っており、区ごとのこども文化センター合同行事の実施や全市規模の行事の実施を行っていた。行事の実施についても施設ごとに特色ある行事を実施していることは評価できる。また、各施設を統括する本部職員を配置することにより、他のこども文化センターと連携を図り管理運営を行っていたことは評価できる。

55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、安定した経営を行っていたことは評価できる。

4 来年度の管理運営（事業執行）に対する指導事項等

次年度も引き続き55施設の指定管理者として安定した経営、他施設と連携した行事等スケールメリットを生かした管理運営を実施すること。事業の実施に当たっては運営協議会を始め地域と連携し、より一層地域の状況に合わせた特色ある行事の実施等を行うこと、また目標利用者数を設定する等具体的な数値目標を設定し客観的に事業の達成状況が分かるようにすること。